

## 第3回天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 平成29年5月17日 13:30～14:45

2. 会 場 国土交通省倉吉河川国道事務所 3階会議室

3. 出席者

(委員)

倉吉市長	石田 耕太郎
三朝町長	吉田 秀光
湯梨浜町長	宮脇 正道
北栄町長	松本 昭夫
鳥取県危機管理局副局長	國米 洋一
鳥取県中部総合事務所県土整備局長	竹森 達夫
気象庁鳥取地方气象台長	真木 敏郎
国土交通省倉吉河川国道事務所長	神宮 祥司

4. 降水予測の精度と鳥取県の大雨パターンについて

鳥取地方气象台より説明

<質疑応答>

- ・昭和48年の春に三朝町大谷の集落にだけ集中豪雨があり、大きな被害かであったことがあったが最近はそのような現象はあまり見られなくなったのか。

→当時天気図を見ていないので詳しいことはいえないが、地上付近で日照により気温が非常に上がる場合、何かの拍子に小さな低気圧が発生し、10km程度の積雷雲が出来て局地的な雨を降らせることがある。この小さな低気圧は、積乱雲より下になるため、数値で表現するのが難しく、事前にここに低気圧が出来て局地的な雨が降るといふ予測は難しいというのが現状です。(鳥取地方气象台)

5. 議 題

- ・平成28年度の取組状況と平成29年度の取組について

6. 議 事

○平成28年度の取組状況と平成29年度の取組について事務局より説明した。

7. 意見交換

- ・浸水想定区域図(L2)では広範囲に浸水するため避難手法の検討が難しいと思うの

で、まずは浸水深が深く長時間継続する箇所や家屋倒壊等氾濫想定区域を優先的に検討していくとか、段階的に検討していきたいと考えているが各市町のお考えを伺いたい。また、避難時に自主防災組織がどのように動くか、掘り下げて議論していく必要があるのではないかと思う。(倉吉河川国道事務所長)

- ・市町としては避難の目安や避難所の確保をどのようにするかが気になっている。浸水想定区域図(L2)を踏まえると、避難場所がないところがかかなり出てくるのではないかと思う。そういう意味では車で逃げる場所を想定する必要があるし、避難をしなくてはならない地域の優先順位選定のアドバイスを国交省から頂きたい。

→地域の優先順位を選定してお示しし、議論を進めていきたい。

例えば、避難場所も浸水時間の短い箇所は3階建ての学校等の施設を利用するなどしてどれくらい逃げられるのか等検討していくのが良いと考えている。

- ・避難場所の検討作業は平成30年になってから取り組むというイメージか。

→検討作業は平成30年頃になると思うが、避難所の検討はそれで終わりとはならないと考えている。

- ・避難所をどうするかは1番の問題である。自主防災組織も洪水に対する訓練は十分ではないし、昼間は勤めで人がおらず老人が中心となっているので災害時の人材育成等をどのようにするか課題である。

- ・洪水は昼間の場合もあれば夜間雨が降っている場合もあり、いろいろなパターンの防災対応を今後検討しなければならない。

- ・市町の首長へ助言するのが誰なのか分かりにくい。

平成10年の災害では、県は東郷池の対応で我町まで手が回っていなかった。また、兵庫県佐用町では、避難所へ避難する途中で9名の方が亡くなられており、夜間は外に出ないで家の2階に避難することも必要ではないか。

→倉吉河川国道事務所長と市長・町長のホットラインで、水位の状況や予測と合わせて、夜間の対応が必要となるといったことも含めてわかりやすく情報提供していきたいと考えている。

## 8. 事務局からの連絡事項

- 1) 水防法の一部を改正する法律案について
- 2) 天神川・小鴨川・国府川の緊急速報メールによる洪水情報の配信開始について
- 3) その他

以上の参考資料を配布  
(時間の関係で説明なし)